

## 子どもの教育に新聞の活用を

校長 榎木 稔

本校は、昨年度よりN I E指定校（2年間指定）になり、新聞協会より各新聞（京都、毎日、朝日、読売、産経、日経）を4ヶ月ずつ提供していただいています。その新聞を利用して、本校では、1週間に1回、朝読書の時間に新聞学習を行っています。新聞学習で各学年以下のような取組を行っています。

### 1年・・・「イラストをあつめよう」

子ども新聞の中から、自分が気に入ったイラストを選び、そのイラストから分かることを書きまとめる。

### 2年・・・「4コママンガの感想を書こう」

子ども新聞の4コママンガを読んだ感想を書きまとめる。

### 4年・・・「感想を書きまとめよう」

子ども新聞から自分が選んだ記事の感想を理由も付け加えて書きまとめる。

### 5年・・・「感想を書きまとめよう」

新聞から自分で記事を選び、感想を理由も付け加えて書きまとめる。

### 6年・・・「感想を書きまとめよう」

新聞から自分で記事を選び、感想を理由も付け加えて書きまとめる。

新聞を使って、全校で、「PISA型読解力」の向上を図っているのです。

新聞を活用して学習すると、次のような効果があるとされています。

- \* 新聞の見出し、小見出し、リード文などの言葉にこだわり、言葉の持つ力を実感したり、記事の書き方を学習したりすることで、論理的な思考手順を学ぶことができる。書く力も伸びる。
- \* 文字の裏側にある情景を想像したり、どうなるだろうと記事の先を創造したりして、頭の中でのいろいろな条件を再構築しながら学習できる。
- \* 情報を共有し、その情報に対して、自分の思いをまとめたり、深めたり、発信したりと、多彩な活動ができる。話す力も付いてくる。
- \* 記事を通して、家族で意見交流ができる。家族での対話が増える。保護者が新聞を読む姿を見るだけでも、子どもにとって、文字を読む動機付けにもなる。本への興味付けへと発展する可能性が広がる。
- \* 児童自ら考え、自分の意見を発表し、自分の行動へと変化する。自己教育力が付いてくる。これは、生きる力そのものである。

学校では、上記のような力が子どもたちに身に付くように、学校全体で、継続して取組を進めていきます。ご家庭におかれましても、是非、「保護者が新聞を読んでいる姿を、子どもたちに見せてください。」「お子達と一緒に新聞を読んでください。」そうしていただければ、子どもたちの新聞に対する興味は増し、新聞を通して、親子のふれあいも深まると思います。「新聞は、生きた教材である。」と言われるぐらい大変有効な学習手段です。新聞を学校教育や家庭教育に生かすことにより、子どもたちの世界が限りなく広がってほしいと願っています。

## 学校評価を行います

**目的** 学校教育の改善、家庭・地域と連携・協働する「地域ぐるみの教育」「地域ぐるみの学校づくり」を推進するためのツールとして、学校評価を行います。

**対象・回数** 児童・保護者・地域（学校運営協議会）・教職員に年2回（7月と2月）行います。

**公表** 学校だよりや学校のホームページで、学校評価の結果について公表します。

## うさぎ小屋ができました

地域の地域の方とうさぎ小屋をつくっていただきました。ありがとうございました。

もうまもなく新しくできたうさぎ小屋で生活します。



## 読み聞かせ



今年も毎月23日を読書の日とし、教職員による読み聞かせをしています。4月は校長先生の「コーネリアス、レオ＝レオニ作」、5月は教頭先生が「めっきらもつきらどおんどん、長谷川撰子作」の読み聞かせをしました。

読み聞かせは耳からの読書です。教職員と子どもたちが1冊の本をともに楽しむことにより、お互いの心と心のつながりが生まれます。そして、一人ひとりの子どもが感性豊かな心をもてるよう、タネをまき、育てたいと思っています。

## さつまいもの苗植え



5月23日（金）さつまいもの苗植えに取り組みました。マルチ作りから始め、一人5株の苗を植えました。手馴れた様子で作業を進めている子、一生懸命に土を掘っている子、たっぷりの水をあげている子などの姿が見られました。「収穫したら今年も売ろう。」「スイートポテトにして食べてみたいな。」などの声も聞かれました。

自分たちで責任を持って育てることや、自分たちで育てたものが食卓にならんだり、誰かが買ってくれたり…という経験は子どもたちにとって格別なものとなるでしょう。